

ふるさとへぐり再発見

う ど づ か
烏土塚古墳

14



竜田川駅のすぐ西に見える丘陵が烏土塚古墳で、付近の宅地開発のときに保存運動が盛り上がり、昭和46年に国の史跡に指定され、大切に保存されることになりました。

これは、南北に延びる丘陵の最高所に築かれた前方後円墳で、全長約60m、前方部幅31m、後円部の直径は35mあり、平群谷で最大の古墳です。

墳丘は自然地形を利用していますが大部分は盛り土で、10～20cmの厚さで版築され、突き固められています。

墳丘裾には小さな溝が廻り、古墳の範囲を区画していました。そして墳丘には円筒埴輪が立てられていたようです。

主体部は南に開口する横穴式石室で、全長14.2mあります。玄室長6m、幅2.8m、高さ4.3m、羨道は長さ8.2m、幅1.6～1.9m、高さ2mあり、平面規模に比べて高さのある石室構造となっています。積み立てられている石材も巨大なものを用いており、奈良県下でも巨石古墳として著名なものです。石室は後円部の中央に玄室の奥壁位置を決めて設計され、羨道側に向かって積み立てられていったようです。(石室の図は『広報へぐり』昭和63年10月号を参照)

石室内には組合せの家形石棺が玄室中央と羨道に1棺ずつ安置されており、2体以上が埋葬されたことがわかります。

また、武具、馬具や鏡、土器類、埴輪等の副葬品が多数出土しており、6世紀半ば～後半頃に築造されたと考えられています。

烏土塚古墳墳丘実測図

